

令和6年度第1回千葉県文化芸術推進懇談会 開催結果

- 1 日時 令和6年5月27日(月) 午後3時から5時まで
- 2 場所 千葉県自治会館 9階第1会議室
- 3 出席委員 (委員総数11名中10名出席、座長・副座長以下50音順)
草加座長、石橋副座長、植田委員、垣内委員、河野委員、こまちだ委員、
佐々木委員、椎名(誠)委員、椎名(喜)委員、西委員

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 議 事
 - (1) 「千葉県文化芸術推進基本計画」の概要について
 - (2) 令和6年度主な文化芸術振興事業について
 - (3) 次期「千葉県文化芸術推進基本計画」骨子案について
- 4 閉 会

5 議事概要

- (1) 「千葉県文化芸術推進基本計画」の概要について
- (2) 令和6年度主な文化芸術振興事業について

資料1・2により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

<意見交換概要>

【座長】

まず資料1で説明があった千葉県文化芸術推進基本計画について、その上位としては、文化芸術基本法という法律があり、その7条2項に地方文化芸術推進基本計画の策定について定められている。

策定は努力義務だが、千葉県は計画を定めてるということについて資料1で説明があった。細かい内容について気になるところがあれば、御質問していただければと思う。

資料2の方では具体的な施策として、こういう予算をつけて事業をやっている、事業の内容については資料1のケースに沿って類型化され、それぞれの施策の後ろに番号がついていて、それが施策の展開の文言に合致しているという並びになっているが、事業の内容等も含めて、御質問等があればお伺いをしようと思う。いかがか。

【委員】

新しい計画を作るにあたっては、現在の計画の総括が必要ではないだろうか。どういう課題があつて、その課題への取り組み状況や実績などを総括し、あるいは残る課題は何かを確認して、これに対して次期計画を策定するというのが一般的なプロセスであると思う。

今進んでいる計画は、令和4年度から6年度の3ヵ年計画ということで、非常にタイムスパンが短い。そのため、今の計画について総括するのは難しいと思うが、資料1にある前計画、第2次ちば文化振興計画の総括というのはどうなっていたのか。前回の課題・実施結果がどうなっていて、現計画に引き継いでいく際の課題はどんなもので、それに対して現計画でどう対応したのか。特に、本年度は最終年度ということで、いろいろな予算がついていると思う。特に大きな予算がついているのは施設改修と千葉県誕生150周年記念事業と思うが、これらは十分成果を上げたと考えてよいのか。

つまり、これまでの計画の実績、それから現在の計画の実績をどう評価しているのか。そして、前回の計画での課題は、今回の計画でクリアできたのかできてないのか。あるいは、さらに時間をかけて評価をしていく必要があるのか、その辺りのこれまでの計画の推移と総括を今、事務局の手持ちのデータで構わないので教えていただければ。後で説明があればそれで構わない。

【事務局】

現計画の冊子の中に、前の計画の指標とその結果を記載しており、まとまっているものとしてはそこになると思う。一括してお話しするにあたっては、今回の資料では御用意していない。

【座長】

令和4年から6年の計画の推進状況については、この後の議題で説明していただけるということになっていると思う。その前の話は、報告書なりを少し御提示していただければ。

【事務局】

承知した。

【座長】

他に何か聞いておきたいことや、今年度の事業で確認したいことがあれば。いかがか。

【委員】

今年度事業の中で対象が明確な事業もあるが、例えば資料 2 の 2 ページ目、施策の柱の 2 「ちば」の文化芸術発信事業」であるが、伝統芸能などの保存継承に取り組むといったときに、しばしば具体的な対象というのが落とされがちである。

非常にいじわるな言い方をすると、どれを対象にするんですかというような質問になるかと思うが、可能な限り早くに、具体的な「千葉の伝統芸能」というものの広い見直し、捉え直しをしていただいて、具体的な対策ができるというなと思っている。

例えば、昨年(2019年)の 7 月に南房総市の白間津^{しらまつ}のオオマチという 4 年に 1 度のお祭りがあり、おそらく何百年も続いてきたお祭りで国の無形民俗文化財になっていたかと思う。4 年に 1 度ということで、あまり広く知られているものではないが、昨年は開催ができずに初めて取り止めになっている。それからまたお祭りの話になるが、やむなく少子高齢化の中で実施ができない、白間津の方ももちろんそうだが、そういうこともあるし、色々な人の手をかりて開催をしているというような意見もある。

そういった中で、「伝統芸能等の」といったときに、どうしても能とか一般的なものに目が向きがちになるが、ぜひ県の事業として、千葉県の人々が育ててきた部分というのを可能な限り吸い取っていただけるような、そんな進め方をさせていただけるといいのかなと考えている。

質問としては要領を得ていないところであるが、そんな希望があるということをお伝えしたい。

【事務局】

委員がおっしゃるように、それこそ能などのいわゆる伝統芸能というところはもちろんであるが、お祭りであったり、そういったものを「ちば文化資産」という形で拾っていること等もあるため、そういったものを活かしながら、多くの方に知っていただいて、活用していきたいと考えている。

【座長】

他に御意見や御質問等があれば、お伺いしたいと思うがいかがか。

1 ページ目の「障害者芸術文化活動支援事業」で、事務局である障害者芸術文化活動支援センターの運営を受託している委員、どういうことをやられているかというのを少しお話ししていただけたら。

【委員】

障害者芸術文化活動支援事業というのは、厚生労働省が行っている「障害者芸術文化活動普及支援事業」というのが 1 つの始まりになっており、その上で 5 つのミッションがある。相談事業、ネットワークを作ること、情報発信、人材育成講座、発表等の機会の創出である。

その中で、千葉県は特に人材育成講座を他県より多く実施するようにしている。美術だけでなく、音楽、舞台表現、あとは著作権の事なども学べる講座等もある。

発表等の機会の創出に関しては、舞台表現として東総文化会館の大ホールをお借りして、障害のある方もない方も一緒に舞台を行い、それを映像として残り、年に一度の成果発表の場である「うみのもりの玉手箱（千葉県立美術館で開催）」で放映している。こちらは公募展でもあるため作品の展示もしており、昨年度は 230 点ほど作品が集まった。

そういったことが基本的なベースにはなっており、今年はさらに巡回展ということで千葉県内を 5 ヶ所以上回るということも計画している。相談業務やアーティストの発掘などもしている。

明日から県内ファミリーマートのイートインスペースで昨年度の「うみのもりの玉手箱」の受賞作品を巡回展示する機会もいただいている。

（3）次期「千葉県文化芸術推進基本計画」骨子案について

資料 3、4 により事務局から説明し、その後各委員による意見交換を行った。

<意見交換概要>

【座長】

かなり細かいところまで書き込んであるため、すべて御理解いただけなかった部分もあるかもしれない。

資料 3 については基本的には状況のまとめであるため、もうすでに御意見をいただいていることがあって、それが資料 3 の 10 ページあたりにまとめてあるため、資料 3 は大丈夫だとは思いますが、お気づきの点があれば。

資料 4 は初見の資料ではあるが、今後こういうふうに進めていこうという提示の仕方をされているので、この辺は色々と御意見、御質問もあると思う。お気づきの点から発言をいただければと思うが、いかがか。

【副座長】

資料 3 について、現計画も同様であるが、本計画における「伝統文化」に落語や講談（「芸能」分野）が入っていない状況である。落語なども約 300 年の

長い歴史があると思うので、「伝統文化」に入れても良いのではないかと。

【事務局】

上の分野の項目と、伝統芸能として挙げてる項目の中で一致していない、芸能がないとなると、抜けてしまうということか。そこは確認させていただく。

【副座長】

資料 4 について、今回の懇談会の資料をはじめとして、「千波県」であったり、万祝や千葉ブルーなど、海の要素が全面に出ていると思う。

基本施策の中には海という言葉は入れづらいのかもしれないが、取組の部分に入っていると、なお良いのではないかと。

もう 1 点、施策の柱 2 の「文化芸術を通じた連携・協働」の部分だが、豊かな海と日本の空の玄関口である成田空港を併せ持つ千葉県は、世界に一番近い国際的な県ではないかと感じている。

(1)②に、「ちば文化の魅力を国内外へ発信」という取組があるが、前計画の中にあった「国際」や発信に加えた「交流」という言葉がなくなるのは惜しい。表記が抽象的になるのは仕方がないと思うが、そういった言葉が入るとなお良くなるのではないかと。

【座長】

御意見であるので、「交流」及び「国際」という言葉の扱いについては事務局でまず御検討いただきたい。

資料 4-2 の 1 ページ目「文化芸術とは」については、委員に御意見を伺ってみたいと思う。

この骨子、施策体系の中に書くこの「文化芸術とは」というのは、学術的な書き方ではないかもしれないが、御助言があれば聞かせていただきたい。

【委員】

助言というわけではないが、まず、国の文化芸術基本法についていうと、その対象となる分野については、芸術をはじめ様々な分野が盛り込まれており、それらは本日会議資料 3 の 5 ページのような記載となっている。ただ、これらの分野は例示であると解釈されている。

したがって、各自治体が、それぞれの地域の必要に応じて、その範囲についても戦略的に決めるなどいろいろな解釈ができる組み立てになっている。「規定」という書き方だと、例示されている分野に限られるというイメージが

非常に強いと思われるかもしれないがそういうものでは全くないので、かなり自由度は高いというふうに考える方がよろしいと思う。まずこれが第1点。

「文化芸術とは」ということだが、一般的に国の法律があるので、分野は例示ではあるとしても、これらを念頭に踏まえながらそれぞれの自治体の必要性に応じて（すべての都道府県が同じ課題同じ状況というわけではないはずなので）、カスタマイズすればよいと思う。

千葉県としては、この計画については、行政目的を「誰もが文化芸術に親しめる千葉」を目指すこととし、これを実現するための行政ツールとして計画を作るということと理解した。千葉県民の方々のニーズに合わせてこのように目標を設定したということであれば十分領ける適切な記述であると思われるし、その旨を計画に記載されればよろしいのではないかと。

ここからは質問であるが、まず、県民の方々の意識調査をされると思うが、いつ頃に調査を行い、どんな項目なのか。また、結果をどう知ることができるのか。

例えば、千葉県の周辺自治体、東京都や神奈川県、埼玉県など、それぞれ取り巻く環境や、有する文化資源も違うし、当然課題も違って来るはず。もちろん共通の理念、SDGsや、地域ブランドの形成とか多様性の尊重も重要だというのは、一般論としてあると思うが、それぞれがどれくらい重要と考えるべきなのか。千葉県民の喫緊の課題は何か。そういったことは県民の方の御意見も聞かなければいけないのではないかと強く感じている。ぜひきちんとした調査をしていただき、それらを踏まえて、課題は何なのかを改めて明確にすべきと思う。県の行政が認識している課題と、県民の方々が感じている課題、現場で働いている実践者の方々の課題、外から見ている私達のような研究者が見るところと少しずつ違っていると思う。それをうまく調整していただいて、県民の皆さんにとって今必要な課題が何かということを出さなければならないかと思っています。

県民の方々が、文化芸術はどこか少し高尚だなと思っているのであれば、そもそももう少し多様性を認めるような取組をして欲しいと仰っているのであれば、それらにも応える必要が県としてはあると思う。

また、気になったのは現在の計画は5つの柱があるが、新しい計画は4つの柱になっている。私が見る限りでは、前の計画では子供たちとか若い世代に特化した柱があったが、骨子案では、施策の柱1に合体しているようだが、独立して対応する課題ではないのだろうか。一般的にいうと、少子高齢化の中で子供たちにどうキャパシティビルディングとしての芸術を体験してもらうのかと

というのが非常に大きな課題として社会的に認識されているという実態もある。

ぜひこのあたり、県民の方々の意識も十分確認していただいて、やっぱり 5 つでいいのか、あるいは 4 つに集約した方がいいのかということもあわせて御検討いただけるといいなと思った。

更に、資料 4-1 の令和 6 年度の目標値、文化芸術を鑑賞した県民の割合、活動したことがある県民の割合などについて、この目標値が非常に高いように思う。文化庁が行っている全国的な調査によると、直接鑑賞した人の比率はだいたい半分ぐらい、自分で行った人はボランティア活動・支援をしたという人も含めて 13%。環境が整っていると思っている人が 5%ぐらいで、ややそう思う人が 32%、あわせて 37%である。今の計画で非常に高い目標設定となっているのは、第 2 次ちば文化振興計画で残された課題だったからだろうか。目標値の設定の考え方もあわせてお聞きしたい。

【委員】

いろいろ多岐にわたる示唆をいただいた。

私が質問したことに関しては、県としての今向き合う課題を整理し、その課題解決のための文化芸術の考え方・生かし方ということで整理したらどうかというお話だったように思う。

文化芸術基本法の前文などを使ってしまうと「心豊かな生活及び活力ある地域社会の実現あるいは平和の・・・」というものを書いてしまうが、「千葉県として何が課題で、それを解決するための文化芸術の生かし方を整理する」という考え方は確かにあるなと思った。

その中の 1 つは少子高齢化、全国的に大きな課題だという示唆もあったように思う。先ほど副座長の方からお話があったように国際都市としてのポテンシャルを生かすというのかもしれないし、地域ということで、人づくりと環境づくりと地域づくりと書いてあるところとも繋がるキーワードを並べる方が確かにいいかなという気もする。

それと御指摘いただいている評価の指針というのと、それから施策の柱、ここが 4 本になっているというのも、それでいいのかなというお話もあったように思う。確かに私もその 5 本の柱が今 4 本になっているので、見比べたが、少し頭の中で整理ができてないので明確には言い切れないが、子供の話というのは重要ではないかという示唆があった。

他にこれだけは言っておきたいということがあれば御意見いただきたい。

【委員】

施策の柱1の(3)に、子供たちの文化芸術活動の充実というところがある。この中でぜひ加筆していただきたいのが、部活動の地域移行によって文化系部活動で活躍する子供たちがより一層充実した文化芸術活動に取り組めるような施策を加筆していただきたいと考えている。

前回の基本計画策定の際には、おそらく部活動の地域移行というのはあまり具体的に見えなかったと思うが、現在、令和8年度を目途に中学校の土日の部活動を地域に移行するための準備が進められている。

柏市など、部活動の受け皿となる組織・企業団体等が多数ある都市部では比較的順調に準備が進められていると聞いている。しかし、茂原市など郡部では受け皿となる組織が少ないために、文化系の部活動をどうするのか非常に困っている。このままでは中学校の部活動は大きく衰退することが予想される。

千葉県として、部活動の地域移行がスムーズに進むように、受け皿となる組織・企業団体等を支援するなど、まさに行政ツールとして、文化系部活動で活躍する子供たちがより一層充実した文化芸術活動に取り組める環境づくりについて加筆していただきたい。

【座長】

具体的な内容をどこに書くかというのは別にして、今の御意見の中では学校教育における文化芸術活動の充実という中に入ってくるのかもしれないが、中学校も部活動が外に出してしまうという方針が示されてるので、そこはトピックスとして書いておかないといけないかもしれない。

【委員】

待ったなしの喫緊の課題である。次の計画の中に書き加えていただけると助かる。

【座長】

その余波で、高校スポーツも衰退化するのではないかという話もある。高校野球も中学校から優秀な選手を集めているから、中学校の部活動が充実しなくなってくると、スポーツも衰退するのではという話もある。そういうことも少し気にかけておく必要があるという重要な示唆だと思う。他にお気づきの点があれば。

【委員】

資料4でいいなと思ったところが、文化芸術は高尚なものだと捉えられている

と書いてくれている。私がいつも懇談会で話していることが反映されていると感じた。一般県民の方にも伝わりやすい、なるべくやさしい言葉にして欲しい。

それからもう 1 つ、他の委員の方もよくお話ししているが、事業などどうしても行政がやるとつまらないものになっていってしまう。計画の趣旨として誰もが表現できるようにしましょうと言っているわけなので、もう少し県民目線というか、地域であったり、民間企業であったりといったところが出てきてほしい。

例えば民間企業という言葉があまり計画に出てこない。先ほどクラウドファンディングの話があったが、文化芸術は結構お金がかかるはずなので、県の予算でやるだけではなくて、強いて言えば民間からの寄付を集められることだとか、スポンサー企業がお金を出しやすい仕組みを作るとか、結構大事なのではないかなど。

お金を集められる・出資してくれるような形を作る、そういうところを入れておいてくれたら良い。なかなか難しいのかもしれないが、期待しているのでよろしくお願ひしたい。

【委員】

国際交流の話に関して、私も大変関心があり、またポジティブにとらえていくべきことなのかなと思っている。

私どもの事業は観光寄りではあるが、昨年度、当パークにおける海外のゲストの方の人数が最も多く、2019 年のコロナ前よりも多くお越しいただいている。来日されている方も増えていて、その中で、積極的に観光されていて、お金を落としていただいているという状況。千葉県には空港もあるというお話があったが、国際という意味でも非常にポテンシャルのある地域であると思う。

文化という文脈に捉え変えると、海外の方は我々が気づかないところに驚かれたり、興味を持ったりすることが多く、それが我々の文化・魅力の発見といったことに繋がる。この交流から文化の認識に繋がるということも期待されるのではないかと思っており、そういう意味でも国際交流を入れるというのは、よろしいのではないかという感想。

また、施策の柱について、魅力を、あるいは地盤を作るという文脈の柱と、発信するという柱があり、発信というのは 2 番とか 4 番とか、それぞれそういうエッセンスが入ってるように見受けられる。これらをどこで切り分けるか難しいところだとは思いますが、「どの事業で何を図るか」のときに目的がある程度クリアになっていれば良いのではないかという印象を持った。

特に施策の柱 1、2、3 のところはインフラを作ったり、人を育てたりネットワークを作ったりというところで、4 番が逆に「何を」というところに言及さ

れているのかなという印象を受けた。何を作って発信するかというところをまとめるのであれば、他の 1、2、3 のところは逆にインフラを作る、こう整理する、そのような整理を打ち出されてもいいのかなと思った。

【委員】

いくつか確認と、気づいたことを述べる。

資料 4-1 で計画が 7 年間とある。事務的な話になるが、計画を作るときには指標を作るので、中間年度の見直しは考えているのかどうか確認をさせていただきたいのが 1 つ。

それから、先ほど施策の柱は 4 つとか 5 つとか話があったが、計画を作る時に、前計画と比較して大きな特徴は何かということを確認にすることによって、政策の柱の数や中身など、そういったところがおのずとわかりやすくなるのかなと考えている。

先ほど千葉の海や、国際交流の話があった。そこで、施策の柱 1 が青字と赤字が非常に多く、この部分がウェイト的に非常に大きいことがわかる。また、3 つの視点からそれぞれの施策の柱は、明確に区分できなくて、お互いに重複している部分があるため、施策の柱 2 以降に再掲ができると。そういうことを考えると、すべてにわたって均等にしてほしいと言うつもりはないが、施策の柱 4 のところは千葉の強みというところでもう少し厚みが出ると良いのではないか。

施策の柱 4 には 1 つ新規があり、青字も 1 つある。青字の部分は千葉県誕生 150 周年の関係であるが、この大きな事業を引き継いでいくことを、青字ではなく新規みたいな話にできれば、前計画と比較して次期計画の大きな特徴になるのではないか。

ここに厚みが出れば、非常に大きなインパクトのある計画になるのかなという気がした。

【座長】

最初の 7 年間の間のベンチマークというか、評価は行うのかというところだけ、現段階でお答えをいただけることがあればお願いしたい。

【事務局】

御指摘いただいたとおり中間見直しを行っていく予定であり、それとともに毎年度事業の進捗状況の確認をしていく予定。

【座長】

あとは御意見なので、それをどう解釈していくか、参考にしていただければ。

【委員】

施策の柱が 5 本から 4 本ということで、先ほど委員の方でも仰っていたが、整理の仕方が重複している部分と、それぞれの柱をどう際立たせたらいいのかというところ、いまいち自分自身がよく掴めてないということもあるため、その辺もう少し整理ができたらいいかと思う。

【座長】

懇談会が終わった後でも、こういう整理の仕方があるんじゃないかというアイデアがあれば、事務局にお伝えしていただければ。

私の方から 1 つだけ、資料 4-1 の人づくり、環境づくり、地域づくりであるが、頭出しは悪くないかなと思うが、その下に書いてある文章は、もう少し整理する必要があると思っている。

例えば「人づくり」のところは、全体をボトムアップするというのが一つの手法だとすると、それから優れた才能を見つけて伸ばすというのも重要だと思う。頂点を作っていくという考え方だ。「地域づくり」のところも、優れた地域があるのであれば、地域間交流を促進するとか、真似ていくとか一緒にやっていくとか、あと、良いところは伸ばしていくという仕組みも取り入れるように文章を少し加筆できたら良いのではないかな。

あとは施策の柱に関して、皆さんおっしゃるとおりで、4 つで整理できてるかどうかというのが今ストンと落ちてはいないので、その辺はもう 1 回再考する必要があるのではないかなという気がした。

【委員】

施策の柱 1 (4) ①について、文化芸術を担うアーティスト、頂点を育てていくというところで、アーティスト自身は自分の権利を守るということ、法律上のことや著作権のこと、契約書の書き方など、そういうこともこの中に入れていくことが大事ではないかなと思った。ただお金を渡すのではなく、どうやって守っていくのか。

あとは、学校の先生、そもそも部活を教える人がどこにいるのかと。現状、長生郡市は図画工作の先生が 0 である。

【委員】

デザインの目線で意見させていただく。アナーキーなことを言うてしまうか

もしれないが、資料 4-2 の「目指す姿」であるが、何かこう、今ひとつネガティブなような気がしていて、「誰もが文化芸術に親しめる千葉」で良いのか。そもそも文化芸術は人が参加しないと成り立たないと考えたときに、「親しめる」という表現はどこかおかしいのではないか。

「誰もが文化芸術に親しむ千葉」。あるいは、「人々が支える千葉の文化芸術」ぐらいの何か強い言葉があってもいいのかなと少し思った。そうすると、「文化芸術の考え方」も先ほど議論があったが、全県民が参加をするぐらいの何か強いメッセージがここに出てきてもいいのかなという感じ。

そうすると、7年後の目標は100%。統計上のという話ではないが、そんな意思が強くても良いのかなと思った。

【座長】

100%の方はあり得ないかもしれないが、現状の鑑賞率76.4%というのも微妙な数字で、自分が文化芸術に触れてるのに気づかない人もいるだろうと思う。もう少し「気づき」へのアプローチもしていくというのは、仕掛けとして必要なだろう。

文化芸術が何かということ、何となく高尚だという印象があるのかもしれないが、お祭りも食文化も文化だと言っているのだから、そうすると76.4%というのも微妙な数字だなという気がする。

【事務局】

先ほど垣内委員から御質問のあった意識調査について、調査を6月18日から実施し、8月の下旬には結果概要（速報値）が出る予定。9月の懇談会では、結果をお示しするスケジュールで進めている。

【事務局】

先ほど「文化芸術とは」というところで色々御意見をいただき、非常に参考になった。ここについては今回一番手を入れたところであり、思いとして、「敷居が高い」と思われているところをなくしていくべきなのではないかということ、それから、昨年度も御意見のあった、文化芸術は身近にあるという「気づき」を広めていかなければいけないということ、それに触れる、本来触れている人はたくさんいるだろうということもあるが、そこをきちんと捉えていかなければいけないということ。これが大きな課題であるので、本日色々御意見を伺ったので、それらを反映させていきたい。

また、千葉県は国際的なところの強みであったり、海を打ち出すことや、少子高齢化、その辺の大事な課題についても言及があった。施策の柱が5本か

ら 4 本に変わったというところも、こちらとしては子供・若者向けの施策が他の施策と重なっていたため、集約して見せようとしていたところであり、今後、子供・若者に対して、どう文化振興を進めていくのかというところ、もう少しアピールできるような形に整理し直していきたいと思う。

また御意見などいただければ、それらも踏まえてまとめていきたいと思う。